

新発田・北蒲 理科部

部長 阿部 英幸 (猿橋小)

1 研究主題

子どもが生き生きと主体的に学ぶ理科授業

2 研究主題設定の意図

学校教育法では、習得、育成する要素の1つとして「主体的に学習に取り組む態度」を規定している。どの教科においても、主体的に学ぶことの大切さは言うまでもない。理科における主体的に学ぶ姿とは、『自然に親しみ、見通しをもって観察・実験などを行う』ことであろう。その方策として、以下の視点から研究を進めた。

- ・科学的な見方・考え方を促す言語活動の充実
- ・実感を伴った理解を促す教材の工夫と単元構成

さらに、その方策が有効であったかを研究授業を通して検証した。

3 事業の実際

- 4月 第1回理科部会 理科部研究計画の検討
 - ・役割分担 ・研修テーマ、活動計画、授業者決定
- 5月 第2回理科部会 講話・実技研修
 - ・講師；星野 勝紀 様 (三市北蒲原郡地区理科教育センター所員)
 - ・内容；第5学年「電流のはたらき」
 - ・会場；三市北蒲原郡地区理科教育センター
- 10月 指導案検討会
- 11月 第3回理科部会 研究授業
 - ・指導者；伊藤 義人 様 (新発田市立住吉小学校)
 - ・授業者；川崎 英樹 (新発田市立二葉小学校)
 - ・単 元；第5学年「電流のはたらき」
 - ・会 場；新発田市立二葉小学校



4 成果と課題

○成果

第2回部会で理科センターの先生から研究授業単元について教えていただいた。指導のポイントや教材の工夫について事前に研修することで、授業者は授業づくりに役立てることができた。また、部員も知識を得た上で研究授業を参観することができたため、活動に深まりがみられた。

研究授業では、5月の研修を参考にして、子どもたちがより実感を伴って理解していけるように教材の使い方を工夫することができた。また、ワークシートに表現させることで言語活動の充実を図った。思考過程が見やすく工夫されたワークシートは、子どもたちの思考の整理に効果的であった。

○課題

充実した活動ができているが、部会が3回であるため、部員全員での指導案検討会を行うことができない。指導案検討会を充実させることで研究がより深まると考える。